特定非営利活動法人山村塾

# 2020
# 年次報告書
## Annual Report

こめづくり もりづくり ひとづくり
山村塾

# 1 活動コース（稲作コース・山林コース）と里山ミニワーク

山村塾の活動コースでは、農家と一緒に農作業や山仕事に汗を流したり、山村での交流や体験を楽しみながら、棚田や森林を守る活動を行っています。

2020年度は、**コロナ禍の影響を大きく受けた一年**となりました。4月～6月はすべての行事を中止し、7月以降は定員を縮小するなど感染症対策をとりながら活動を再開しました。一部行事は中止や延期しましたが、代替として「里山ハイキング」など新たな企画を実施したり、参加人数が多い行事を複数回に分けるなど工夫しながら、活動コースの行事を計20回開催しました。

2020年度から年会費や参加費の仕組みを見直し、入会者増を目指しましたが、感染症の影響を受けて、会員数・参加者数は大幅に減少しました。（2019年度74組→2020年度64組）

制限のある一年でしたが、自然のなかで過ごすことや交流することの喜びを再認識できたように思います。

**【活動コース行事（稲作・山林・全体行事）】**
活動場所：四季菜館、稲作コースの棚田、えがおの森、ケヤキ林、炭窯、上鹿子尾地区内の森林等
回数：20回（20日間）
参加者　：**延べ307名**（2019年度798名）
スタッフ：延べ106名

**【里山ミニワーク】**
活動場所：四季菜館、炭窯
回数　　：3回（4日間）
参加者　：**延べ14名**（2019年124名）
スタッフ：延べ14名

収穫祭の代替イベントとして開催した「里山ハイキング」（11月）。稲作コース・山林コースそれぞれで行いました。

災害支援を取り上げた新聞記事で山村塾のことを知り、田んぼや農作業に興味があったので稲作コースに申し込みました。「今週末は椿原さんのところに行くよ」と言うとヤッター！と喜ぶ子供達。7歳の長男は、田んぼ周辺の虫取りを楽しみつつ大人に混じっての作業が好きで、味噌作りが一番楽しかったそうです。3歳の次男は鴨に餌をあげるのが大好きです。子供達は「椿原さんのお米が美味しい」と言い、お米を食べる量も増えました。

食べ物を作る場に関わることができ、美味しいお米に出会えてありがたく思っています。

**稲作コース会員　冨吉 初恵さん**

田植え、鴨進水式の代替として開催した「田んぼと鴨の見学会」（6・7月）

## 2 研修事業

### 福岡県森林づくり活動安全講習会

**主催：**福岡県

福岡県内の森林ボランティアを対象とした県主催の安全講習会の企画・運営を担当しました。今年度は森林ボランティアの基礎知識、手道具での森林整備、動力（草刈機・チェーンソー）の安全な取り扱いに関する講座を**全10回開催**しました。

開催場所：八女市、久留米市、福岡市、北九州市、飯塚市
受講者数：121名
実施日程・回数：7月～3月　全10回（延べ11日間）

### 令和2年度自伐林家育成研修

**主催：**福岡県

福岡県森林環境税の取り組みである「自伐林家育成研修」は**3年目を迎え**、10名の受講生を対象に延べ22日間の研修を行いました。当研修では、週末や仕事の合間などを活用して地域の森林を守る「自伐林家」を育成し、荒廃した森林の再生を担う人材を増やすことを目標としています。

開催場所：八女市、久留米市、広川町
受講者数：25名（過去参加者のフォロー研修15名含む）
実施日程・回数：7月～3月 全15回（修了者向け３回含む）

研修では、予想以上の内容をしっかり教えていただきました。また、講師陣や講習生である仲間との出会いにも感謝しています。様々な職業を持ちながら、皆さんが山に対して真剣に考えをお持ちで意見交換ができ、有意義な時間を過ごすことができました。講師陣の、根拠に基づいた仕事をされる姿は本当にかっこよく、頭と体を使ったかっこいい林業を子どもたちに伝えていきたいと思いました。

私たち講習生はまだ林業のスタートに立ったばかりですので、この関係を大切にし、今後しっかり実践を踏んでいきたいと思います。

**令和２年度自伐林家育成研修受講生　山口 真紀さん**

## 3 里山での福祉～「社会福祉法人たからばこ」との森林整備

これまで月2回行ってきた障がい者施設「社会福祉法人たからばこ」との山での活動は、感染症の影響で、４月からほぼ２ヶ月間中止になる等、回数を減らした1年でした。また、感染症対策で、緊急事態宣言中はボランティアは参加しない、昼食を山村塾、たからばこで別々にとる等の対応がありました。

そんな中、山での活動にフレッシュなメンバーが加わり、新たな雰囲気が生まれました。ＫさんとＥさんは高校を卒業して、たからばこで働きはじめました。**最初は難しかった山での仕事**ですが、仲間たちに助けてもらい、山での過ごし方を教えてもらって、作業にも慣れていきました。

形は変わりましたが、この活動を続けることが出来、本当に良かったです。

参加人数：延べ92人
実施回数：12回
活動内容：森林整備、椎茸の菌打ち

**普段の作業との違いについては？**
自然に触れ合うことで情緒の安定が見受けられました。皆さん、非日常的な場所での作業を楽しみにしており、雨で作業が中止になると不満の声があがります。雨の日も出来る作業が増えると嬉しいです。

**利用者の皆さんが山に通うことで変化したことはありますか？**
私の主観ですが、外作業での作業意欲の向上が見受けられました。また、暑さや寒さ等の外的要因に対する耐性（汗をかいたら飲水する、寒かったら重ね着をする等）がついたり、外作業ならではの学習が出来ていると思います。

**満足度の高い山での作業は？**
グループワークです。山での作業には個別対応が必要な方も参加していますが、それぞれの役割に対しての責任感や作業をする楽しみ等が実感できていると思います。コロナ禍の中で難しい事ですが、感染対策を行い対応してくださる山村塾の皆様に感謝しております。

**社会福祉法人たからばこ職員　不破 世界さん**

# 4 奥八女芸農プロジェクト

九州大学ソーシャルアートラボと連携し実施してきた奥八女芸農プロジェクトは６年目。プロジェクトの中核となる「奥八女芸農ワークキャンプ」のほか、オンライン講座「奥八女芸農学校」や感染対策を徹底したアートイベント「唄って踊って味わう八女茶山@彼岸花美しい棚田」など**新たな取り組みにチャレンジ**しました。

## 奥八女芸農ワークキャンプ

共催：九州大学ソーシャルアートラボ（SAL）、
NPO法人日本国際ワークキャンプセンター（NICE）
助成：積水ハウスマッチングプログラム、福岡県文化プログラム推進費

奥八女芸農ワークキャンプ2020（8/24～10/12の50日間）
参加者：5名＋アーティスト家族3名
成果　：棚田の草刈り、ラッキョウ仕事、米づくり、竹林整備、イベント参加・サポート

笠原で暮らしながら、アート×農を実践する「奥八女芸農ワークキャンプ」は今年で**３年目**。残念ながら海外からの参加を得ることはできませんでしたが、国内から参加したメンバーと日帰りボランティアによって、農作業や山仕事、アート活動に精を出しました。アーティスト枠で参加の武田力さんは、生後２か月のＨちゃんを含んだ家族３名での滞在に挑戦し（ワークキャンプ参加の最年少齢記録を更新）、ボランティアや地域の方々と一緒にアートと農のある暮らしを試行しました。（※活動風景を動画で紹介中→ TikTok から@yamechayamaを検索）

## 八女茶山おどりプロジェクト

共催：九州大学ソーシャルアートラボ（SAL）
補助金：八女市市民との協働によるまちづくり提案事業

八女地域で唄われてきた八女茶山唄をもとに、2019年に八女茶山おどりが創作されました。今年は八女茶山おどりの普及を目指し、彼岸花と棚田を舞台に八女茶山唄を唄い、踊り、八女茶を味わうアートイベントを実施したほか、**パンフレットと解説動画の制作**に取り組みました。

感染拡大防止の観点から多くの人と関わることは出来ませんでしたが、これまで積み重ねてきた材料と経験を活かし、八女茶山おどりは未来へつながっていくでしょう。

※八女茶山おどり
プロジェクトについて
https://sansonjuku.com/project/yamechayama

※解説動画（YouTube）
https://youtu.be/4QZg9QkoZ4I

撮影：富永亜紀子

## 5 日帰り・週末ボランティア

助成：積水ハウスマッチングプログラム

ワークキャンプ代替事業として、少人数での「日帰り・週末ボランティア」を５月下旬から**計25日間**開催。**延べ90名**の方々に棚田での米づくり、らっきょう仕事、草刈り作業などに取り組んでいただきました。

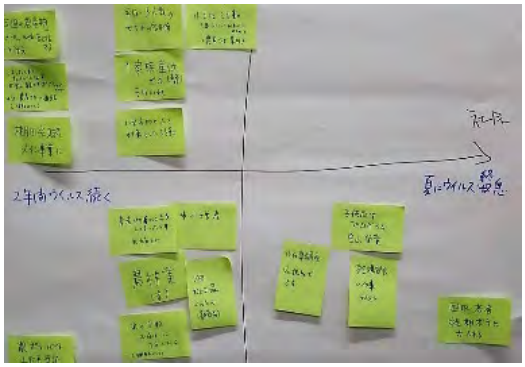
日帰りボランティアで一番大変な作業は田んぼの草取りでした。稲と稲の間を、草取り棒（棒の先にピーラーの大きいものがついている）で雑草を削るのですが田んぼが水平でないため、干上がっている場所はかなり力が必要で、手袋しないとマメができそうでした。また、雑草の成長が早いところは、稲と雑草の区別がつかなくなり、見分けるのが大変でした。

日帰りボランティアの初心者に、いちばんお勧めの作業はらっきょうの収穫と、皮むきです。収穫は、らっきょうをゆっくり引っ張ればいいだけなので、田んぼの草取りほどは大変ではなく、皮むき作業は、涼しい笠原のそよ風の中で、黙々とマイペースでできます。

らっきょうの収穫や田んぼの草取り中に、ウグイスの鳴き声を聞いた時は、テレビ等で聞くウグイスの鳴き声とは、比較にならないくらい気持ちよくなり、笠原に来てよかったなあと思いました。また、原さんやファンさんの的確なサポートにより、作業をスムーズに行うことができました。

**日帰りボランティア参加者　田中 秀明さん**

## コロナ禍の1年を振り返って



2020年4月6日（4/7初めての緊急事態宣言）、事務局にて、感染症に関するシナリオ毎のアイデア会議を行いました。縦軸が「山村塾の活動」、横軸が「感染症の影響」です。自分の努力だけではどうしようもないことが起きていましたが、最悪の状況においても出来ることを考える機会になりました。このときの最悪のシナリオは、「感染症の影響が2年以上続き、倒産の危機を迎える」で、それに対するアイデアは、「農産物販売に力を入れる」、「フットパスをつくり散策」、「農林業オンライン研修」、「農林業バイトで食いつなぐ」などでした。

### 事務局スタッフ 活動コース担当　原　愛子

大人数で集まり活動することや、一緒にお酒やご飯を楽しむという、何気なく行っていたことが、実はかけがえのない時間だったのだと何度も思い知らされた一年でした。

このコロナ禍で印象に残っていることは、活動を再開するにあたり、事務局で何度も話し合いを重ねたことです。山村塾としての対応や感染症対策について整理・共有でき、また定期的に見直すことで、状況に合わせて改善することができました。開催をどうするか悩む場面が何度もありましたが、こうした軸があったことにより必要以上に振り回されなかったように思います。

ここ数年、活動コースの会員数が増え、毎回たくさんの方が参加し賑わっていたなかで、急ブレーキをかけられた状況ではありました。一方で、新しい企画を行うことができたり、少人数での活動で参加者と農家との交流が深まったりと、”例年通り”に行っていた活動の内容を、一度立ち止まり見直す良いきっかけになったと思います。

感染症対策をとりながら、制限のあるなかでの活動ですが、そんな中でも参加してくださる皆さんに力をいただいています。これからも知恵を出し合い工夫しながら活動を行っていきたいと思います。

### 事務局スタッフ 合宿事業担当　ファン　ポウェイ

2020年はほんとうに異色の一年でした。２月下旬に台湾に里帰りしていた時、日本へ戻る予定だった飛行機が感染症の影響でキャンセルされました。その後は、未知のウイルスに遭われ、全国が緊急事態宣言に入りました。１年をかけて、仕事もプライベートも大きな変容がおきました。

担当するボランティアプログラムが一番影響を受けました。開催する予定だった、80日国際交流ワークキャンプと10日間の台日交流ワークキャンプが中止。奥八女芸農ワークキャンプ（50日間）は日本人のみの参加でした。また、コロナ対策として、活動の規模を縮小したり、宿泊プログラムに感染対策を徹底したりしました。参加された方々は物足りなく感じた部分もあったことでしょう。

事務局では、感染症対策の議論をはじめ、事業内容の見直し、消毒の仕組みなど論戦を繰り返し、そのおかげで、いいアイデアがでました。それは、ワークキャンプの代わりに、日帰りボランティアを開催すること、八女茶山おどり大会で、密となる交流を控え、広い棚田で歌いながら踊ることなどです。コロナで活動規模を縮小するだけの一方通行の対策にならず、積極的に新たな提案を打ち出すことが必要と、一年をかけて勉強しました。

# Panasonic NPOサポート プロボノプログラム

小さなNPO・ボランティア団体は、目の前の仕事に追われて本質的な振り返りや改善に時間を割くことが難しいように思います。山村塾も、活動日こそ大勢の方々でにぎわいますが、組織運営や事業の改善を話し合う時は、少人数で話が行き詰まり具体的な実行に移せないことも多々あります。そういった中、パナソニック株式会社からプロボノ支援のお話しがあり、社内公募に手を挙げた福岡・大阪・東京の9名の方々がボランティアとして参加されました。

9名の皆さんには、2020年8月18日のキックオフミーティングから2021年3月28日の最終ワークショップまでの７か月に渡り、オンラインを活用しながら「笠原棚田米プロジェクトのマーケティング基礎調査」に協力いただきました。平成24年豪雨からの復興事業として開始した笠原棚田米プロジェクトを、美しい棚田を未来に引き継いでいくための継続事業にしていくために、どのような事を大事にし、だれに伝えていくのか？その障壁は何なのか？といったことを探るべく、アンケートやヒアリング調査、関係者との意見交換など精力的に動いていただきました。

山村塾のボランティアと言えば、農家と一緒に働いたり、草刈りや森林整備といった汗を流す活動が中心でしたので、こういった**内部の議論を進める外部からのボランティア**は、とても新鮮で心強く感じました。皆さんの熱意に後押しされ、理想と現実の間にこぼれ落ちていた課題を集め、向き合うことができたように思います。具体的には、SNSやYouTubeを活用した双方向のコミュニケーションを図り、笠原の農家や風景をもっと身近に感じてもらう工夫をすることや、棚田米のwebサイト・申込み方法の改善、他団体・他分野との連携といったハード・ソフトの両面に気づきを得ることができました。

今回のプロボノプログラムは、「プロボノ」推進に取り組む中間支援組織の認定NPO法人サービスグラントにサポートいただきました。パナソニック株式会社、認定NPO法人サービスグラント、プロボノチームのご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

**＜参考＞ Panasonic NPOサポート プロボノプログラム**
https://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf/probono.html
パナソニックは2011年から従業員の仕事のスキルや経験を活用してNPOを支援するプロボノプログラムを開始し、東日本での復興支援など様々なNPOや地域団体の支援に取り組んでいます。

# ご寄附について

**105名**の方々から**計2,379,234円**のご寄附を頂戴しました。

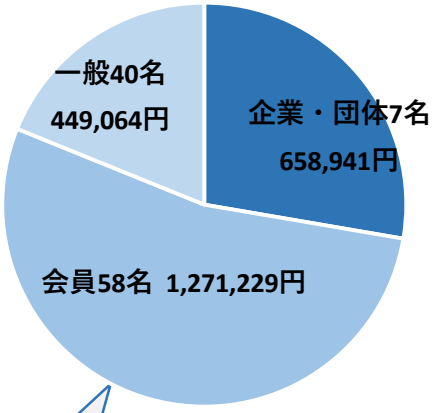
山村塾の取り組みを応援いただき、誠にありがとうございました。

## 寄附金内訳（事業別）

| 項目 | 金額 | 備考 |
|---|---|---|
| **一般寄付金・ヤマヤマ基金等** | 2,319,234円 | 棚田や森林を守る取り組みに活用させていただきました。 |
| **平成29年豪雨** | 20,000円 | 平成29年九州北部豪雨により被災した朝倉市黒川地区の復興 |
| **笠原復興基金** | 40,000円 | 平成24年九州北部豪雨からの復興、笠原地区の棚田保全事業 |
| 計 | 2,379,234円 | |

※賛助会費は受取会費に計上し、この金額には含まれていません。

## 寄附金内訳（寄附者属性）




**▶企業・団体からのご寄附について**

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、ＫＤＤＩ株式会社九州総支社、古本募金きしゃぽん、かってに林業を応援する会、特定非営利活動法人森づくりフォーラム、たからばこ職員有志一同、十人組共有林、羊の和。

※詳しくはホームページにて報告しています。 http://sansonjuku.com/news/archives/category/news

# 会計報告

## 2020年度 財務諸表

### 活動計算書（2020年4月1日～2021年3月31日）

| 科目 | | | 金額(円) | |
|---|---|---|---|---|
| 経常収益 | 受取会費 | | 405,000 | |
| | 受取寄附金 | | 2,379,234 | |
| | 受取助成金・補助金 | | 2,265,583 | |
| | 事業収益 | 自主事業収益 | 10,130,293 | |
| | | 受託事業収益 | 13,804,620 | |
| | その他収益 | | 2,228,383 | |
| | 経常収益計 | | 31,213,113 | |
| 経常費用 | 事業費 | 人件費 | 8,529,592 | |
| | | 商品仕入高 | 3,548,257 | 笠原棚田米仕入れ代金等 |
| | | 諸謝金 | 3,126,000 | 研修事業講師謝金等 |
| | | 業務委託費 | 2,692,511 | 活動コース農産物、食事代等 |
| | | 食材料費 | 749,732 | 合宿ボランティア食事材料代等 |
| | | 消耗品費 | 1,831,687 | 笠原棚田米資材、研修事業資材等 |
| | | その他経費 | 6,215,323 | 保険料、えがおの森賃借料、宅急便代等 |
| | 管理費 | 人件費 | 1,366,489 | |
| | | その他経費 | 858,338 | |
| | 経常費用計 | | 28,917,929 | |
| 経常外収益 | | | 88,450 | |
| 経常外費用 | | | 497,586 | |
| 法人税 | | | 71,000 | |
| | 当期正味財産増減額 | | 1,815,048 | |
| | 前期正味財産増減額 | | -177,962 | |
| | 次期繰越正味財産増減額 | | 1,637,086 | |

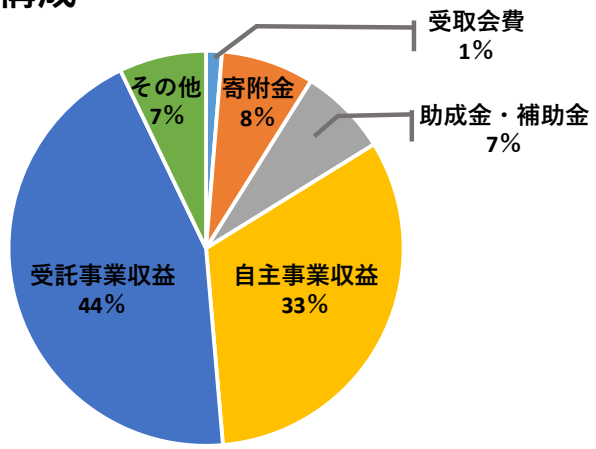
**▶自主事業収益 内訳**

活動コース年会費収益 19%
棚田米サポーター会費収益 42%
参加費収益 6%
農産物販売収益 16%
利用料収益 9%
その他 8%

### 賃借対照表（2021年3月31日現在）

| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 科目 | | 金額(円) | 科目 | | 金額(円) |
| 流動資産 | 現金 | 297,240 | 流動負債 | 未払金等 | 8,889,128 |
| | 預金 | 7,737,426 | | 流動負債計 | 8,889,128 |
| | 棚卸資産 | 2,656,600 | 固定負債 | 長期借入金 | 4,736,000 |
| | 未収入金等 | 2,784,044 | | 固定負債計 | 4,736,000 |
| | 流動資産計 | 13,475,310 | | 負債の部 計 | 13,625,128 |
| 固定資産 | 建物 | 1,670,853 | 正味財産の部 | | |
| | 車両運搬具 | 1 | 正味財産 | 前期繰越正味財産 | -177,962 |
| | 機械装置 | 112,375 | | 当期正味財産増減額 | 1,815,048 |
| | 保証金 | 3,675 | | 正味財産の部 計 | 1,637,086 |
| | 固定資産計 | 1,786,904 | | | |
| 資産の部 合計 | | 15,262,214 | 負債・正味財産の部 合計 | | 15,262,214 |

## 財源構成




## 2020年度方針と総括

感染症の影響を見極め、組織の存続と雇用の維持を第一に考えてスタートしました。イベント休止や参加定員削減といったマイナスの影響はありましたが、農産物（食べ物）でつながった関係、寄附が大きな支えとなりました。企業等からの大口寄附は減少しましたが、**個人の方々からの寄附額がおよそ1.5倍**に増加しました（2019年116万円→2020年172万円）。また持続化給付金や雇用調整助成金といった支援制度を活用できたこともあり、黒字決算となりました。

## ご支援のお願い

**山村塾の活動は、皆様からのご寄附で支えられています。**
**山村の暮らしに学び、山村の環境を守る取り組みに**
**ご協力をお願いします。**

山村塾は、運営組織や経理が適正で、事業活動に公益性が保たれていることが認められ、
2020年3月19日付で、福岡県より「認定NPO法人」として認定されました。
認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すために国が設けた税制優遇制度です。
山村塾へのご寄附は、確定申告することで寄附金控除の対象となります。

<参考>内閣府NPOホームページ（認定制度について）
https://www.npo-homepage.go.jp/about/npo-kisochishiki/ninteiseido

▶**ご寄付の方法**：払込取扱票をご利用、または下記口座へお振込みでご寄附をお願いします。

| | |
|---|---|
| **郵便振込口座から** | 【加入者名】特定非営利活動法人山村塾<br>【口座番号】01790-3-169398 |
| **銀行から** | 【金融機関】ゆうちょ銀行　【店名】一七九（店番 179）<br>【口座番号】当座0169398 |

※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレスを事務局までお知らせください。

こめづくり もりづくり ひとづくり
山村塾

山村塾は1994年に2軒の農林家と会員有志によって、棚田と山林を守る取り組みをスタートしました。都市と農山村の住民が一緒になり、環境にやさしい米づくりや豊かな生態系の森づくりを通じて、山村の環境を守る活動と、その活動を支える交流や人づくりを行っています。

**特定非営利活動法人山村塾**
〒834-1222福岡県八女市黒木町笠原9836-1
TEL・FAX：0943-42-4300　E-mail：info@sansonjuku.com
https://sansonjuku.com
@sansonjuku
山村塾 YouTube　検索
山村塾
ホームページ